

脳卒中患者さん向け

「じぶんを生きる」を支える リハビリテーション





脳卒中に特化した専門性の高い リハビリテーションを提供

患者さんの目標を
かなえるために

当院は、脳卒中分野に強い専門職がそろい、先端機器を活用しながら質の高いリハビリテーションを提供しています。脳卒中患者さんが希望を持ってリハビリテーションに取り組めるよう、ソフト面とハード面を整えています。

脳卒中分野に強いスペシャリストたち

当院には3名のリハビリテーション科専門医をはじめ、脳神経外科医や神経内科医が脳卒中リハビリテーションに携わっています。そのほか、脳卒中認定理学療法士や補装具認定理学療法士という、脳卒中リハビリテーションにおける高い専門性を持つスペシャリストも在籍しています。



リハビリテーション科専門医
牛場 直子 Ushiba Naoko
脳卒中の症状は千差万別です。それぞれに最適なリハビリテーションが提供できるよう、チーム一丸となって取り組みます。

副院長／脳神経外科専門医
村上 秀喜 Murakami Hideki



脳卒中の後遺症は丹念なりハビリテーションを行うよりほかに回復の術がありません。患者さんのリハビリが軌道に乗るようお力添えいたします。



神経内科専門医
小倉 由佳 Ogura Yuka
患者さんの不安に寄り添い、困りごととともに解決し、リハビリテーションに取り組めるようサポートいたします。

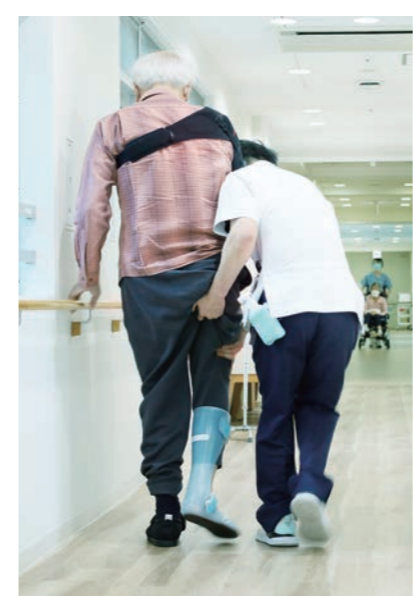
脳卒中認定理学療法士
長谷川 奨斗 Hasegawa Masato



「もっと良くなりたい」という想いに応えるため、スタッフ一丸となって研鑽に努めています。一人ひとりの人生の大事な局面に関わる覚悟を持って支援いたします。

脳卒中と補装具の
認定理学療法士が
6名在籍!

患者さんの歩行能力を着実に高める



週1回、義肢装具士が来院し、
医師とともに装具診を行います。

脳卒中患者さんは、運動麻痺や感覚障害などの症状から歩行障害を生じることが多くあります。当院では、療法士が患者さんの状態を正確に把握し、多様な装具や先端機器を用いて入院早期から歩行練習を行います。重度の運動麻痺があっても、一緒に挑戦できる環境が整っています。患者さんの意思を丁寧に汲み取ったうえで目標を設定し、退院後の生活を見据え、活動の幅を広げます。

麻痺に対応した先端機器が充実



Brain Machine Interface (BMI)

BMIは、頭部にセンサー、手にロボットを装着し、脳の信号に合わせて、ロボットによる手の運動と電気刺激を発生する先端機器。重度麻痺の改善に効果が期待されています。



Welwalk (ウェルウォーク)

ロボットの力で体重を支えるため、重度の運動麻痺がある方でも安全に、個人に合わせた歩行練習ができます。モニターを見て自身の歩行を確認し、達成感を得ながら歩行練習を進めます。

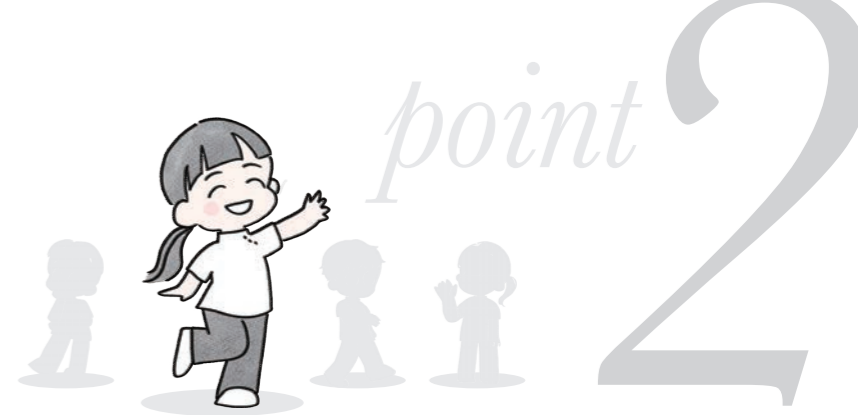


NEURO TREAT (ニューロトリート)

摂食嚥下障害の治療用に開発された電気治療器で、嚥下に関わる筋肉のトレーニングに使用します。微量の電気を筋肉の奥まで伝導させ、嚥下運動の改善を促します。

チームアプローチで

「自分らしく生きる」をかなえる



当院が所属する平成医療福祉グループは、
「じぶんを生きるをみんなのものに」を
ミッションとして掲げています。



私たちが目指すのは、病気を治すだけでなく、
患者さんが自分らしい生活を取り戻して、
生き生きと過ごせるようになることです。

「退院後は、なるべく早く仕事復帰したい」
「歩いて旅行に行けるようになりたい」といった

患者さんにとって当たり前の生活を1日でも早く取り戻せるよう、
入院初期から多職種でチームを組み、一丸となって患者さんをサポートしています。



生活動作を回復する

患者さんが退院後どのように暮らしていきたいかに焦点を当て、ADL（日常生活動作）能力を最大限に引き出すリハビリテーションに取り組んでいます。患者さんの想いを第一に、安心・安全に生活できる環境設定のサポートも行います。



言語機能を回復する

失語症や構音障害により言葉の問題を抱えながら生活する方も少なくありません。当院では患者さんのコミュニケーション能力を最大限に引き出せるよう、言語機能の改善に向けて質の高い言語聴覚療法を提供しています。



尊厳を回復する

患者さん一人ひとりの尊厳を守るためのリハビリテーションを提供。口から食べる可能性を最後まで考えた「摂食嚥下リハビリテーション」、自らの意思でトイレに行き、排泄することを目指す「排泄リハビリテーション」にも力を入れています。

リハビリスタッフが総勢104人在籍

※ 2024年11月現在

当院には多数のリハビリスタッフが在籍しています。運動麻痺と歩行の改善を目指すPT、日常生活動作の回復を目指すOT、食べる力・話す力を高めることを目指すSTと、それぞれの専門職が、患者さんが自分らしく生きられることを目標に、熱意を持って臨床に向き合っています。

理学療法士



作業療法士



言語聴覚士



数字で見る実績

※ 2023年度実績

当院は全国平均よりも多くリハビリテーションを提供しています。

他の医療機関よりも難しい方をお受けしているにもかかわらず、多くの方を在宅復帰に促すことができます。

※ 基準値は診療報酬上の基準値
※ 全国平均の数値は「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に対する調査報告書（2023年度）」より

リハビリテーションの提供単位



1日にリハビリテーションを行う時間（1単位=20分）。

生活自立度の改善（FIM利得）



入院時と比較した退院時の能力改善の数値。他院よりも優位性が見られます。

実績指数 FIM利得÷在院日数で算出



短期間でリハビリテーションが効果を出せたことを示す指標。

平均在院日数



退院までの平均日数。当院では診療報酬のルールの中で患者さんの意向を伺いながら適切なタイミングで退院調整を図ります。

在宅復帰率



自宅など（有料老人ホームなども含める）に帰られる人の割合。

高次脳機能訓練と 復職支援

point 3

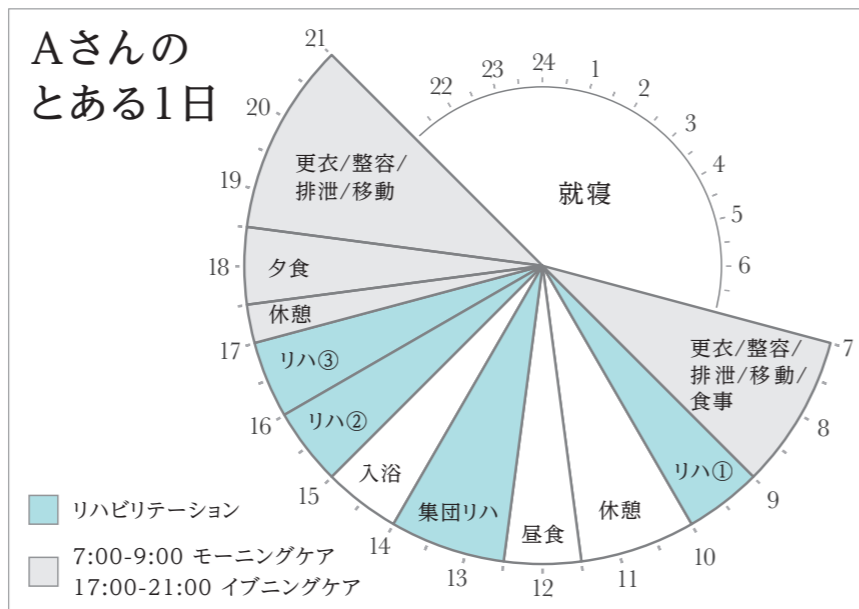


働きたい、
働き続けたいを支援

脳の損傷によって、注意力や記憶力、感情のコントロールなどに問題が生じ、日常生活や社会生活が困難になった高次脳機能障害の患者さんへの取り組みと、職場復帰を想定した当院のリハビリテーションについて紹介します。

1日のリハビリテーションの流れ

高次脳機能障害の患者さんに対しては、まず、入院前の生活状況を聴取し、障害による生活への影響や達成すべき課題、目標の共有をしたうえで、外出訓練や料理・洗濯などの家事動作の練習を行います。



外出訓練

外部環境に適応するための練習を行います。屋外を歩きながら車や信号に注意を払えるか、買い物をして金銭管理ができるか、公共交通機関を利用できるか、患者さん一人ひとりに合わせた練習を提案します。

家事動作の練習

リハビリテーション室のキッチンで調理を行い、調理器具や調理手順・方法を正しく選択できるか、火の取り扱いなどリスクへの配慮ができるかを評価します。動作が難しくなっている要因を精査し、解決に向けてサポートします。

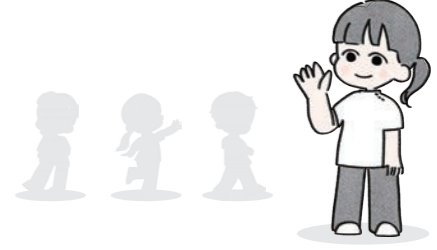


仕事や日常生活で
車が必要な方に
運転再開を支援

脳卒中患者さんは、道路交通法により臨時適性検査の受験が義務づけられています。当院には自動車運転再開支援外来があり、ドライビングシミュレーターなどを活用しながら適正検査に備えることができます。

退院後も続く サポート体制

point 4



治療とリハビリテーションの流れ

①入院前

転院元の病院と連絡を取り、まずは情報を収集します。医学的情報はもちろん、社会的情報（ご家族の有無や介護保険の認定状況など）も得て、入院後のプランを検討します。

②入院初期

多職種でチームを組み、状態を評価します。患者さんのご希望やご要望を伺ってから目標を立て、それに対するギャップを探りながら、治療・リハビリプランを立案します。

④退院

退院前は患者さんの自宅に伺って家屋指導を行います。ご家族に介助指導を行い、外泊訓練も行います。退院後に利用する在宅サービスのスタッフや福祉用具業者とも情報共有を行います。



③入院中～後期

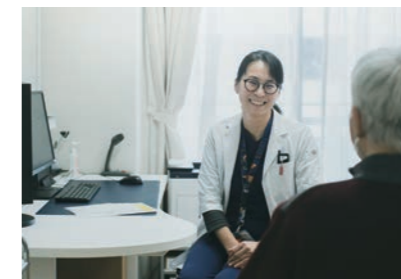
毎月、患者さん一人ひとりのカンファレンスを行い、方針を見直す機会を設けています。患者さんの可能性を広げるために何ができるかを検討しながら、退院に向けて準備を進めます。



⑤退院後

退院後は外来リハビリテーションや訪問リハビリテーションを活用し、継続してリハビリテーションを受けることができます。くわしくは下記を参照ください。

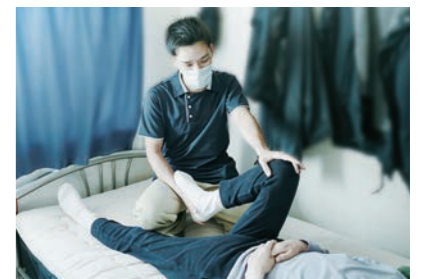
退院後もリハビリテーションが継続できる



外来 リハビリテーション

当院は退院後も一貫したサポート体制を整えています。通院できる方は外来リハビリテーションを、通院が困難な方は在宅サービスの一つとして、訪問リハビリテーションを受けることができます。在宅サービスでは、医師による訪問診療にも対応しています。入院時から患者さんの状態を把握し、退院後も自宅の環境に合わせた最適なリハビリテーションを提案します。

脳卒中により何らかの障がいがあり通院できる方は、外来にてリハビリテーションを継続することができます。体が動きにくい、在宅生活で困っていることがあるなどの悩みに対し、個別プログラムを提供します。



訪問 リハビリテーション

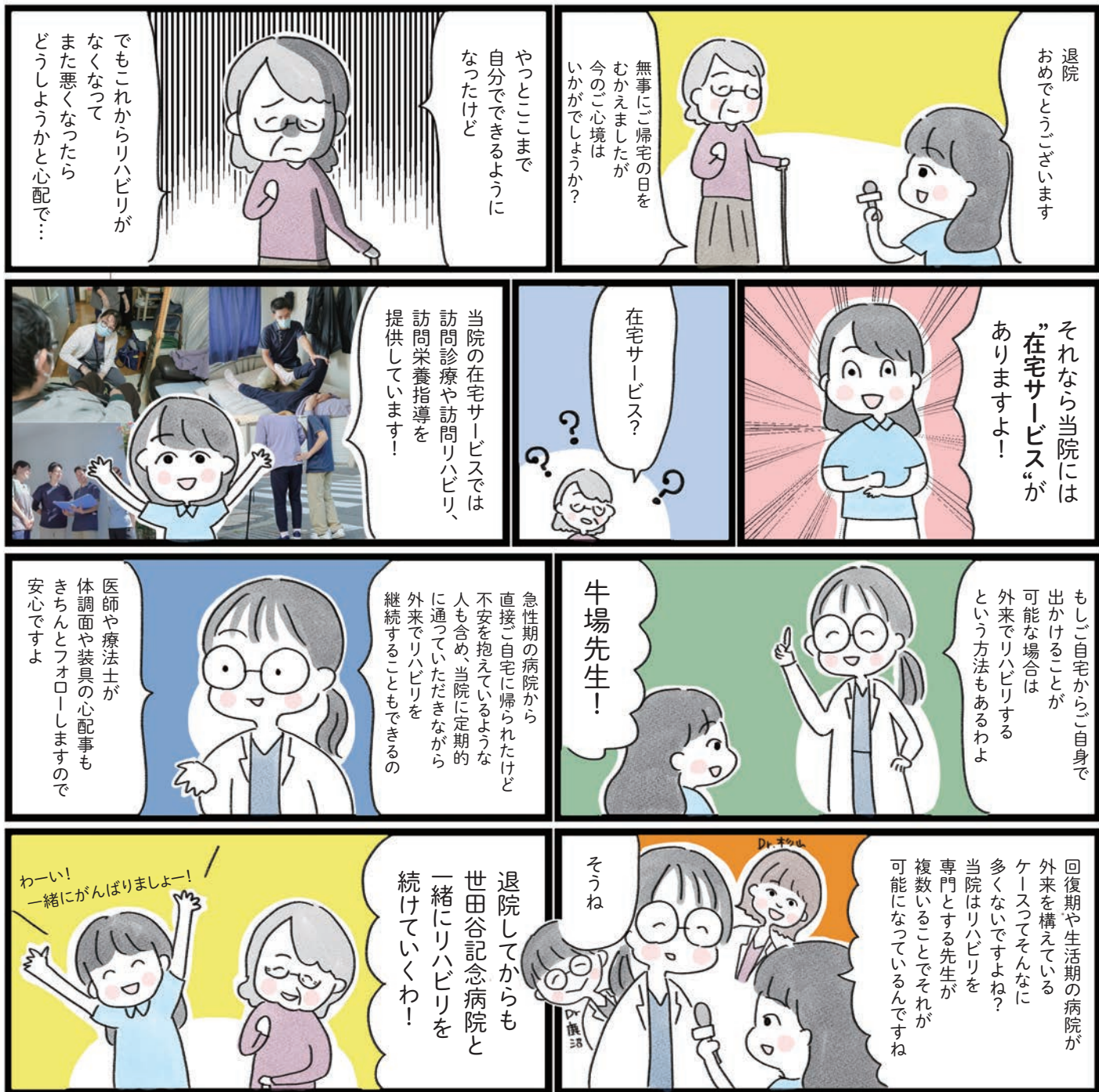
通院が難しい方には、リハビリスタッフをご自宅に伺う訪問リハビリテーションを提供しています。退院して間もない方や長期的な介入が必要な方にも対応。当院から半径4kmが訪問エリアです。



飛び出せ！広報ちゃん

TOBIDASE / KOUHOCHAN

当院のWebサイトで展開している「せたがやコラム」の広報ちゃんが、退院が決まった脳卒中患者さんをインタビュー。



電話番号 03-5752-1577 (地域連携室直通)

受付時間 9:00~17:00 月~土曜日

住所 〒158-0092 東京都世田谷区野毛2丁目30-10

F A X 03-5752-1578

メールアドレス info@setagayahp.jp

